

総務厚生委員会

政策課題

1. 個性ある地域づくりの推進と一体感の確保
2. 人口減社会におけるあらたな行財政運営
3. 健康・元気・安心社会の実現

政策課題1 個性ある地域づくりの推進と一体感の確保

先進地「豊田市」の視察及び各支所地域の地域審議会正副会長との分野別意見交換会を開催し、課題の調査・分析を行いました。

【行政視察】 地域自治システム

(豊田市)

◆概要

平成17年新豊田市誕生
(周辺6町村と合併)
・面積 約918km²

豊田市の地域会議

設置単位：各中学校区単位
(全27地区)
委員定数：20人以内
任期：2年(再任は1回まで)
身分：非常勤特別職
(地方公務員)
委員報酬：なし
(費用弁償として1,000円のみ)
●多様な意見を集めるため、多様な団体・公募委員・男女比率・年齢構成・地域性に配慮
●各地域自治区事務所市の地域支援課と11の支所の合計12か所に地域支援担当を配置

①地域会議
・市長からの諮問に関する審議・答申
・わくわく事業の審査
・地域課題解決の検討と行政への提言
・地域会議だより等による地域への情報発信

②地域予算提案事業
地域の意見を市の施策に反映させることで地域課題を解決させるため、地域会議ごとに年間2千万円を上限に提案を予算化する仕組み。

③わくわく事業
地域の組織や市民活動団体が主体的に取り組む事業に対する補助金制度。地域会議単位で年間500万円を上限。

募集↓事業公募↓応募
↓公開審査↓プレゼン
↓採択・補助金交付↓
事業実施↓成果発表会
※個々の事業の補助率や補助金額・補助対象などの決定は、地域会議ごとの基準で判断。

・人口 約42万人

合併した都市部と山間部では地域事情の違いにより課題も異なり、市内一律の対策では十分な成果が得られにくいため、必要などころに必要な対策がタイムリーに行き届く新たな仕組みとして「地域自治システム」を構築。

策に反映させることで地域課題を解決させるため、地域会議ごとに年間2千万円を上限に提案を予算化する仕組み。

【意見交換会】

地域審議会正副会長との意見交換

◆主な意見

○地域振興予算

・地域振興特別予算に代わるものは、形を変えて残すというところが大前提
・地域の予算は人口割りではなく、地域の実情に応じて必要な所にフレキシブルに予算づけしてほしい
・協働のまちづくりは、地域の予算削減ありきの話に聞こえる
・地域予算の大枠がつかめず方向性が決められない
・すべて費用対効果では支所地域はやっていけない
・予算は配分方式ではなく、夢の描けるような方式がいい
○地域審議会に代わる新たな組織
・準備委員会は立ち上げたものの、何をやっていいのかわからない
・組織論はあとでいいので、地域課題を洗い出して、どんな地域を目指すのかという議論を若い人の意見も聞きながら進めるべき
・新しい組織と支所機能はセットで考えるべきで、機能や権限を明らかにしないまま組織論が先行するのはよくない
・新しい組織の委員は公募も含め、意欲ある人に参加してもらうべきだが、若い人や女性の参加も、現実的には難しい
・協議会の事務局には市の職員を配置してほしい

◆提言の方向性

○新たな組織と支援制度の構築

・陳情・要望型を脱皮して地域住民が課題解決に向け、自ら考える必要がある
・全市一律の考え方はなく、地域の意向を尊重した柔軟な支援制度を整えば、住民のやる気を生み達成感も高まって地域力の向上につながるのではないか
○支所機能のあり方
・地域と本庁の連絡係としての支所を脱し、支所長の裁量権強化も含め、地域に寄り添う姿勢が住民にも感じ取れる体制が必要
・総合支所という位置づけから本庁直轄化や担当のブロック化等による集約など取扱事務の精査、地域支援担当に重点注力という考え方も必要ではないか

